

この先、Windows はどうなる？ 2024 年に Windows 12 が登場する可能性がある？

(抜粋)

2022 年 08 月 07 日 10 時 00 分更新
文 塩田紳二 編集 ASCII

Windows 11 の最初のアップデートがもうすぐだ。今回は、**今後の Windows のアップデートサイクル**について考えていくことにする。

Windows 10 が登場するまで、Windows のメジャーアップデートサイクルは 3 年だった。

Windows Vista 以降、Windows 10 が登場するまで、7、8、10 と 3 年周期でメジャーバージョンアップがなされてきた。しかし、今の時代に 3 年は長すぎる。インターネットを始めとする Windows を取り巻く状況やユーザーニーズの変化に追従しきれない可能性が高い。そもそも Android や iOS など、スマートフォンの世界ではバージョンアップは 1 年単位である。

こうした問題に対応するため、Windows 10 では 2017 年以降、大胆にも半年周期の機能アップデートサイクルを採用した。実際には、2015 年には最初の Windows 10 (TH1) とアップデート (TH2) が出ており、2016 年は RS1 こと「Anniversary Update」に手間取ったというのが本当のところかもしれない。

そうして半年ごとのアップデートになった Windows 10 だが、その後の状況を見ると、多数の新機能を取り込んだものの、すぐに廃止というパターンが少なくなかった。どうも、Microsoft は新機能を「盛り込みすぎる」きらいがある。

また、Windows 10 リリース時の表現では、Windows 10 はずっとアップデートし続けるということだったが、結局は 6 年で終了。昨年登場した Windows 11 と交代した。Windows 10 は、2025 年までサポートされるが、今後大きな機能拡張は期待できないし、アップデートサイクルも 1 年になった。さすがに半年では、搭載すべき機能を絞り込んだり、洗練させる時間もない。CPU などの製品サイクルを考えると 1 年が妥当な線なのだろう。

気になる Windows 11 の今後とその次

—2024 年にも Windows 12 が出る可能性がある？

Windows 11 では、初めて CPU の世代による“足切り”が実施された。大まかにインテルの第 8 世代相当の CPU であることが求められた。実際には、それ以前の CPU でもアップグレードはできるが、ユーザーが障害発生などのリスクを負う形になっている。このとき同時に Windows 10 の対応 CPU も明確になり、リスト化された。

Windows 10 では、Windows 7 からの無償アップグレードがあったため、相当に古いマシンでも Windows 10 にアップグレードすることができた。 Windows Vista や

Windows 8 といった「人気がない」バージョンが出てしまったことで、PC ハードウェアと Windows のバージョンの関係がかなり複雑なものになっていたという要因もある。Windows 11 にはこれを正常化させ、対応が困難な古い CPU を Windows 10 に止めておくという役割があるのだと考えられる。

Windows 10 は 6 年という長い期間、「最新バージョン」であり、旧世代からのアップグレードを含めると、ハードウェアのバリエーションが多い。となると、対応すべき項目も多く、おそらく開発工数が増えているのだと思われる。

Windows 11 ではここを足切りすることで、古い CPU をサポート外とした。

インテル側でも、2020 年にリリースされた第 10 世代以前の CPU 内蔵グラフィックスを「レガシー」扱いとして、緊急性のあるセキュリティアップデート以外の更新を止めている。第 10 世代の GPU は、ちょうど Windows 11 の前年、つまり Windows 11 プレインストールマシンの最低ラインにあたる。2020 年には Windows 10 の Direct X が 12 Ultimate となり、翌年に Windows 11 (WDDM 3.0) が登場している。

Windows 11 もアップデートサイクルは 1 年。Windows 10 は、なんだか年中アップデートしていた印象だが、回数が半分になり、アップデートに要する時間も短縮されたため、Windows 11 はかなり落ち着いた感がある。

そして Windows 10 のサポート期限が 2025 年と設定されていることから考えると、3 年周期のアップデートに戻す可能性もあるのではと想像する。というのも、Windows 11 (2021 年) の 3 年後である 2024 年が Windows 10 終了の前年にあたり、買い換え需要が想定できるからだ。そして、このとき、Windows 11 と同じようにアップグレード可能な CPU がリストで明確化される。Windows 11 登場時に出荷されたインテルの第 11 世代あたりが、最低限のラインになるのではないだろうか？

サイト：<https://ascii.jp/elem/000/004/100/4100999/>